



本村幼稚園 12月の園だより

令和4年 11月 30日 港区立本村幼稚園長 山村 登洋

ほんむら子供美術館へようこそ

園長 山村 登洋



師である僧侶でさえ、東西を走り回るぐらい忙しい月という意味の師走。

今年は、ここ数年続いている短い秋ではなく、久しぶりにたくさんの秋を感じられる年の瀬を迎えました。そして、2学期も早いもので残り1ヶ月となりました。

今年最後のイベント「展覧会」が12月1日（木）、2日（金）に開催されます。異年齢保育を行って9ヶ月が過ぎますが、その良さが今回の展覧会にも特色として表れています。それははと組、りす組が力合わせた共同制作「ほんむらわくわくらんど」です。先月実施したあらかわ遊園で実際に乗ったメリーゴーランドと豆汽車のイメージを子供たちが再現しました。今までならば年長のはと組が中心に行っていた内容を今年のはと組にりす組も加わり全員で作成しました。作品だけではなく展覧会当日、それを動かしたり運営したりすることもはと、りす組と一緒にやります。「ほんむらわくわくらんど」での子供たちの動きには大注目です。



もちろん、各個人作品も力作がそろっています。子供たちの一つ一つの作品には、そのお子さんの夢や希望が表現されています。作品からその子供たちの気持ちをぜひ読み取っていただきたいと思います。展覧会の2日間はいつもの幼稚園が子供美術館に大変身します。どうぞ、楽しみにしててください。大勢の皆様のご来園をお待ちしております。詳しくはりす、はと組だより「展覧会特集号」をご覧ください。

2学期の子供たちの成長

【はと組】 ■個からの脱却！集団意識＝コミュニケーション力の向上

・5歳になったら来年度に控える小学校への進学のためにも集団での生活は重要と考えています。集団生活を送るためにはコミュニケーション力が不可欠です。2学期はその集団意識とコミュニケーション力が大きく開花したと感じています。私たちは運動遊びでドッジボールやリレーを取り入れ、子供たち自ら話し合ったり、実際に試したりする中で集団としての役割を学ばせました。また、異年齢保育でりす組の子供たちに自分の思いや考えを言葉で伝え合うことでコミュニケーション力が高まりました。語彙力の向上もコミュニケーション力を後押ししています。

【りす組】 ■手先がとても器用になりました&異年齢保育の恩恵

・特にそう思えるのは、園服や洋服のボタンの掛け外しがスムーズにできる、固結びが短時間でできる、はさみで自由に切ることができるようになったことです。また、異年齢保育の恩恵として、りす組も集団で遊んだり、話し合ったりする意識が育っています。はと組の子供たちを真似る姿も多く見られました。

11月26日には、本村小学校開校120周年記念式典に参加しました。6年生の「喜びの言葉」に登場した子供たちは、大勢の来賓が見守る中、お祝いの言葉とお祝いの歌を披露しました。終了後は多くの拍手をいただきました。物怖じせぬ姿が印象的でした。成長し続ける子供たちにこれからも期待が膨らみます。